納税首位 2位 白糠町

は2・1倍の8万円。返礼、契約するふのポータルサ加えて17カ所いくらの良さリピーターがエンペラーサ注文してくれった」（担当トの評価レビ00を超える。

道内3位も道東の根室市で、33%増の65億8910万円は全国5位だった。「びっくりするような返礼品は扱っていない」（担当者）と話す通り、リピーターが多いのが根室市の特徴だ。17年度からは都内のホテルで毎年、抽選で2500人を対象にした限定イベントを開催。根室の食や観光をPRしてきた。19年度のふるさと納税リピーターは14万6千人と、17年度の2・9倍に膨らんだ。

千歳市は16億6748万円を集め、18年度の45位から19年度は6位に急浮上した。ポータルサイト数を6増の8カ所に増やし、返礼品は市内に工場があるキリンビールやカルビーなどと組んで5割増の536品に増やした。一定量のビールが毎月届くプランも設け、納税額を増やした。

18年度（49位）から15位に浮上した弟子屈町もA5クラスの和牛やマンゴー、イチゴを増やした返礼品の見直しが奏功した。80位以上も順位を上げて20位に食い込んだ中札内村は豚肉や卵などを追加。18年度の3倍近い70～80品目に広げた。

■還元率引き下げ組苦戦

一方、総務省の返礼品規制後は還元率の高さで勝負してきた自治体が苦戦を強いられている。18年度に首位だった森町は73%減の16億476万円（道内7位）にとどまり、首位から陥落した。18年末までは納税額に対して5割の価値がある返礼品を用意してきただけに、19年から必要金額を引き上げたことで納税者が離れたとみている。

18年度に3位だった八雲町も、33%減の24億5624万円（4位）に後退した。18年度は「アマゾンギフト券」を用意しており、町の担当者は「18年度が多かっただけ」と淡々と話していた。

（高橋徹）

10(16)	旭川市	1,313,437	81,238
11(11)	当別町	1,291,814	108,098
12(8)	寿都町	1,113,075	92,440
13(12)	滝川市	1,046,326	56,438
14(13)	釧路市	1,025,393	40,251
15(49)	弟子屈町	934,906	45,103
16(38)	えりも町	897,284	30,961
17(18)	池田町	895,776	62,049
18(36)	恵庭市	775,473	41,443
19(14)	岩見沢市	749,745	40,324
20(105)	中札内村	714,315	67,542

（注）総務省まとめ。金額の単位は千円。カッコ内は18年度の道内市町村の金額順位

も3位に入った紋別市はホタテが人気だはイクラでふるさと納税者をひき付けるは寄付者向けに抽選イベントを毎年開く（画像を一部修正しています）

寄せられる相談内容も変わっている。発生当初は「帰国できなくなった」「どこでPCR検査を受けられるか」といった内容が多かったが、最近は在留資格の更新手続き

外国語指導助手（ALT）として小中学校で3年間勤めた後、ALTらの相談に乗る支援員や、札幌市に国際会議を誘致する仕事などを経験。「再び北海道の外国人が住み

外食の「密」具合 AIカメラ通知

北大発AWL 札幌2店に導入

北海道大学発スタートアップのAWL（アウル、東京・千代田）は人工知能（AI）付きカメラで新型コロナウイルスの感染拡大を避けるシステムを飲食店向けに初めて提供した。イタリア料理店や焼鳥店を手掛けるイーストン（札幌市）の札幌の2店舗で18日から導入された。

AIカメラが店内の密集度合いを分析して客に知らせ、混雑を回避する仕組みで、イーストンの「香香厨房 パセオ店」と「ミアボッカ 札幌エスタ店」にアウルのAIカメラが設置された。8月末にはさらに札幌の2店舗に導入される予定。アルコール消毒の有無も検知し、入店時の対策を促す。

アウルはこれまでサツドラホールディングス（HD）の店舗や大丸札幌店にもAIカメラを導入してきたが、飲食店向けは初めて。

アウルの土田美那氏は「課題を明らかにして飲食店向けの最適なシステムを新たにつくりたい」と話した。

イーストンの店舗に導入されたアウルのAIカメラ

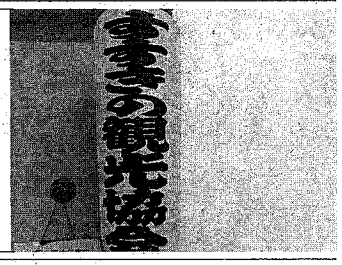
すすきのに助成

札幌市、外食など25万円

感染対策 30項目実施で

札幌市が、新型コロナウイルスの感染防止策を実施し営業しているすすきの地区の事業者に25万円の助成金を給付することが18日、分かった。すすきの観光協会を通じて3000超の事業者が申請できる。早ければ8月末にも申請の受け付けを始め、感染防止策を支援する。

札幌市の「繁華街感染防止対策費」を活用する。すすきの観光協会が定めた感染防止策30項目をすべて実施していることが確認できれば、協会員でなくても助成金を受け取ることができる。6月以降、同額の補助金を給付したが、協会員に限定され給付枠は500程度にとどまっていた。助成金を受け取っても、継続的な感染防止策を怠るようなケースもあったとみられる。



助成金はすすきの観光協会を通じ給付する

札幌は東京や大阪のように急激な感染拡大は起きていないが、すすきのでは7月、キャバクラでクラスター（感染者集団）が発生するなど、接客を伴う飲食店での感染がたびたび確認されている。

すすきのに臨時のPCR検査センターを設けるなど、札幌市はこれまでも集中的な対策を打ち出してきた。

新千歳 国内客69%減

7月、マイナス幅は縮小

国際線ゼロ